

年中行事

- 1月元旦 元朝大護摩供・一礼
1月21日 初大師
2月 節分会
3月 春季彼岸会
4月8日 花まつり（釈尊誕生灌仏会）
4月21日 宗祖弘法大師御影供
5月5日 派祖尊誉僧正恩徳会
6月15日 弘法大師誕生会
6月17日 中興の祖興教大師誕生会
8月16日 万霊供養大施餓鬼会
9月 秋季彼岸会
11月11日 新四国江戸川88ヶ所開創記念大護摩
12月12日 興教大師だらに会
12月^{20日}〜^{22日} 星祭厄除祈願
12月21日 納めの大師
12月31日 除夜の鐘



板碑 天正5年銘
(1577)

〒270-01

千葉県流山市鱈ヶ崎 1303番地

新四国江戸川88ヶ所総本地

真言宗豊山派 守竜山証明院東福寺

電話 0471-(58)-0021

総武流山電鉄鱈ヶ崎駅下車徒歩5分

武蔵野東線南流山駅下車徒歩10分



東福寺の志おり



しゅりゅうざんしやうみやういんとうふくじえんぎ
守竜山証明院東福寺縁起

天曆5年(951)秀岳の記す『縁起』によれば、平安の昔、弘仁5年(814)の2月、弘法大師が東国に巡錫された時、当山のあたりは神竜の守護する霊山といわれ、周囲は海であったという。その山上の草分弁才天の五色の池に住む竜王が老翁の姿となって大師の前に現われ、この山は東方の福田、薬師如来常在の地であるから、仏像を彫み、お寺を建てて欲しいと請願した。そこで、大師は喜んで仏像を造らんとしたが、材料となる御衣木が無い。困っているところへ渺々たる滄海に忽然と光明が輝き、海竜が竜宮の霊仏を大師に捧げた。大師はこれを補修して妙相円かなる衆病平癒の薬師如来を彫み、当寺の本尊となされたという。その時、竜が響の先少しばかりをのこしていったので、この地を鱒ヶ崎といったといわれる。その後、朱雀天皇の頃、平将門が東国に乱を起した時(天慶の乱)、将門討伐の命を受けた藤原秀郷は、天慶3年(940)当寺に詣で、住職永海に頼って2週間に亘って七仏薬師の法を修し、その年2月14日見事に将門を討ち亡ぼしたという。この報に喜ばれた天皇は、勅命により当寺の金堂を修理し、荘田5百石を寄せられたと伝えられている。この藤原秀郷は、俵藤太とも呼ばれ、瀬田の付近で、琵琶湖の竜女の願いにより、三上山のムカデを退治した武将として有名であるが、当寺には、この秀郷と竜女の出会いを描いた大きな絵馬が残されている。(表紙の写真)この後、寺門いよいよ栄え、享保15年(1730)能祥記の『東福寺門末又門末覚』によれば、御朱印地領30石、大本寺として末寺132ヶ寺を統理していたことが知られる。

寺宝 ○ 建久2年(1191) 伝 運慶作金剛力士像(仁王尊)

○ 伝 左甚五郎作眼つぶしの鴨

○ 藤原秀郷ゆかりの絵馬

○ 天正5年(1577) 銘、山王21社本地仏種子マンダラ板碑

○ 千体阿弥陀仏像(奥の院千仏堂)



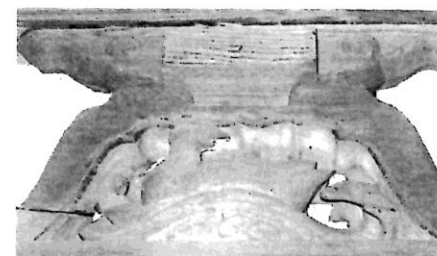
本堂 江戸時代



鐘楼



仁王門 江戸時代(安永4年)
(1775)



眼つぶしの鴨 伝左甚五郎作



奥の院 江戸時代(享和元年)
(1801)



中門 江戸時代初期